

令和元年度第1回霞ヶ浦スタディバスツアー〔上水道編〕を実施しました！

[日 時] 令和元年7月26日（金曜日） 8時50分から12時30分まで
[場 所] 集合・解散：霞ヶ浦環境科学センター
見 学 先：阿見浄水場（阿見町追原）、木原取水塔（美浦村木原・堤防から観察）
[参加者] 32人（大人：14人、子ども：18人）

霞ヶ浦の生態系サービス（自然の恵み）について、関連する施設を見学することで学び、霞ヶ浦をはじめとする自然環境の大切さに気づき、環境に配慮した行動を考えるための「霞ヶ浦スタディバスツアー」を、霞ヶ浦の恩恵の1つである「水道水」をテーマとして実施しました。

霞ヶ浦環境科学センターに集合して、バスで阿見浄水場（阿見町追原）に向かいました。

バスの中ではセンター講師の腰塚囑託から、地球上に存在する水の中で、水道水としてすぐに利用できる水が0.8%しかないことや、浄水の仕組み、江戸時代や明治時代の水道の歴史の話等を聞きました。



阿見浄水場では、講師の松田囑託から、霞ヶ浦の水を浄水して、水道水として家庭に届くまでの仕組みについて説明を聞きました。

また、浄水する中で行く、PAC（ポリ塩化アルミニウム）を使った汚れの除去や、濾過についての実験を、2名の子ども代表が行いました。



水道水の話と実験の後は、阿見浄水場の大きな施設を見学しました。沈殿池や濾過池で水がきれいになっていく様子を実際に見ることで、浄水の仕組みをより理解することができました。



阿見浄水場見学を終えて、次に霞ヶ浦の水を取水している「木原取水塔」を見るために、美浦村木原の湖岸に行きました。堤防からフィールドスコープを使って取水塔を確認しました。

1日のプログラムの中で、霞ヶ浦で水を取るところから、その水が阿見浄水場で水道水になるまでを体感することができました。



参加者の皆様からは、「水道の蛇口をひねれば水が飲めるのは当たり前ではないと思う」、「水をきれいになっていく様子がよくわかりました」、「濁っていたのがきれいになってすごいと思った」「水を沢山使うこの時期に良い企画でした」といった感想をいただきました。

また、「用語で難しいものがあつた」、「子どもには話が難しかった」という御意見もいただきました。

皆様からの御意見を参考に、これからも楽しく体験しながら学ぶことができるイベントを企画しますので、ぜひ御参加ください。

御参加いただいた皆様、御協力いただいた阿見浄水場の皆様、ありがとうございました。